

維持費年間6億円のアオーレを視察

平良木議員はこのほど、市議会中心市街地活性化対策特別委員会に同行して、長岡市のアオーレ長岡を視察してきました。この建物は、市役所や市議会の議場のほか、5,000人収容のアリーナや市民協働センター、シアター、コンビニ、カフェなどが入った大規模施設です。建物正面には「ナカドマ」といわれる屋根付きのフリースペースがあり、常に出入り自由になっています。

「ナカドマ」をはじめ、市民協働センターや市民交流ホールなどは、ほとんどが無料とのこと。アリーナも、ふだんは卓球やバドミントンをしたり、くつろいだりと、自由に使えます。

中心市街地の活性化をねらい、駅前の大手通に面して建設されていますが、他の空きビルも活用し、市庁舎は200mほど離れた場所も含めて数箇所に分散しています。

この施設には、去年1年間で152万人もの入り込みがあったとのことですが、こうした大規模施設が引き金になって、中心市街地に人が集まり、既存の商店街も活性化してきているのかという点では、まだ十分に検証されていないようで、「アオーレの一人勝ち」という批判もあるようです。



また、年間維持費はなんと6億円。そのほかに、大手通庁舎に1億円、市民センターに1億2千万円もかかり、トータルで8億2千万円にもなります。これは、市庁舎の分散配置の弊害だといわれています。

日本共産党の木島しょうじ長岡市議会議員は、「こういった物にお金をかけるのであれば、値上げをする国民健康保険料や昨年度3割も値上げをした介護保険料にまわすべきです」と指摘しています。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.362 2013年5月5日

連絡先

橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)

2政党・2労組団体が連名で抗議

4月30日、村山市長宛てに抗議文を提出

4月20日に行われたお花見会場での自衛隊による武装行動には、多くの市民から疑問や抗議の声が寄せられています。

日本共産党など、2つの政党と2つの労働組合団体は、連名で村山市長に対して、今回の行動への抗議を行いました。抗議を行ったのは、次の団体です。

○上越地区労働組合総連合（布施辰夫議長）

○上越地区平和環境労働組合会議（牧田正樹議長）

○日本共産党上越地区委員会（上野公悦委員長）

○社会民主党上越協議会（本城文夫代表）

抗議文は、4月30日午後、市庁舎で市長代理の山岸副市長に手渡され、参加したメンバーは、それぞれに、「観桜会に自衛隊のパレードそのものがふさわしいのか」「行政としては、参加を要請する以上、内容をしっかり把握すべきだ」「今後はこうした武装行動は二度と行わないようにしてほしい」と強い口調で語りました。

副市長は冒頭、「この間の災害派遣などで、市民の自衛隊への認知が進んでおり、市の内外からは抗議の意見がなく一安心している」と反論しながらも、「観桜会の盛り上げの趣旨で要請したが、装備ほどの程度までが許容範囲かを検討したい。今後その時々々の市民意見を踏まえて、検討する」と答えました。



高田城百万人観桜会における「自衛隊市中武装行動(パレード)」に対する抗議文

去る4月20日、「高田城百万人観桜会」が開催されている高田公園内の県道において、陸上自衛隊高田駐屯地の隊員約170人による「市中武装行動(パレード)」が行われました。

パレードは、迷彩服に小銃を携行し、さらに装甲車も参加するなど市民、観桜会観光客に対し威圧感を与える内容でした。新聞報道でも、観桜会に訪れた市民や観光客からは、「びっくりした」「なぜ、観桜会というイベントに銃を携行してパレードするのか」といった声が掲載されています。

これは、市民や県内外から多くの観光客が訪れる上越市の最も大きな観光イベントの一つである観桜会のイメージを損ねるばかりか、上越市が平成7年に行った「非核平和友好都市宣言」の主旨に反するものといわざるを得ません。については、今回このような武装行動が行われたことに強く抗議するとともに、下記のとおり要請します。

記

1. 今回41年ぶりにこのような武装行動が行われた経緯と市としての総括を明らかにすること。
2. 今回の武装行動が「来年行われる高田開府400年を盛り上げる」ことも目的の一つと報道されていますが、上記をふまえ、今後このような武装行動を行わないこと。

以上

観桜会での「自衛隊市中武装行動」に対して